

同志社よ、その名は一つの目的を意味する

ONE PURPOSE

【同志社人訪問】 映画監督 谷 進一さんに聞く

2023 Spring | Vol.209

巻頭対談企画／スタートアップのココロザシ

株式会社VALCREATION 代表取締役

G&Cコンサルティング株式会社 代表取締役

一般社団法人100年経営研究機構 専務理事兼事務局長

藤村 雄志さん

商学部・商学科 教授

同志社大学中小企業マネジメント研究センター長

関 智宏教授



「起業」から「変革」を アントレプレナーシップの心得



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

彰栄館 1884



キャンパス内に現存する最古の煉瓦造建築。洋風の外観に対して、内部の構造形式は純和風になっている。塔の四方に配置されている時計は1887年に取り付けられたもの。

礼拝堂 1886

プロテスタントの煉瓦造チャペルとしては日本最古。正面中央に円形のバラ窓、左右にアーチ窓を設け、その前に屋根と尖りアーチの入口を持っており、ゴシック建築の特徴が色濃く出ている。



受け継がれる
普遍の価値を

VISION 2025

DOSHISHA UNIVERSITY

同志社は2025年、創立150周年

150年の #1 校舎 歴史をたどる

History of DOSHISHA

「温故知新」。未来
への挑戦の指針

を学びとるべく、積み重ねてきた歴史をたどる。第一回目は校舎の歴史。「建築は記憶の器」といわれるように、建物にはさまざまなドラマが潜んでいます。教育理念を表象する建築物を訪ね、同志社大学のオリジナリティやアイデンティティを探ります。



CHECK

左記コードにて特別ムービーを
ご覧いただけます。

INDEX

- 02 150年の歴史をたどる #1 校舎
- 04 巻頭対談企画「ココロザシ」 スタートアップのココロザシ
藤村 雄志さん×関 智宏教授
- 08 研究の最前線 生命医科学部 奥村 直毅教授
- 10 DOSHISHA DNA
株式会社ブレイド代表取締役CEO 倉橋 健太さん
- 12 2023年度新設全学共通教養教育科目アントレプレナーシップ論
- 13 新たな学年暦
- 14 予算編成方針／同志社大学新島塾 第5期開塾／
ALL DOSHISHA 募金
- 16 新任教員紹介
- 18 ゼミで学ぶ 魅力を語る
- 20 キャリアセンターからのお知らせ／同志社大学公式SNS一覧／
校友課からのお知らせ
- 22 本学教員の執筆図書紹介／
「同志社大学カード／同志社大学学生カード」会員募集
- 24 学校法人同志社創立150周年記念事業のご紹介
- 25 同志社人訪問 映画監督 谷 進一さん
- 28 My Purpose 挑戦する人 東本 侑也さん(スポーツ健康科学部2年次生)

お知らせ

「ONE PURPOSE」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。 ▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

卒業生の住所変更、発送停止を希望される場合の連絡先は以下にお願いします。
校友課 TEL: 075-251-3009 MAIL: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

京田辺校地における
初めての宗教施設

言館・光館 2015



理化学館 1993



有終館 1887

当初は「書籍館」と呼ばれた図書館だった。1920年に第2代図書館（現在の啓明館）が完成し、図書館の役目を終えた際に海老名弾正第8代同志社総長が「有終館」と名付けた。



1965年に建てられた
旧大学会館をリニューアル

寒梅館 2004



誌面で紹介している建物はほんの一部。このほかにもヴォーリス建築事務所が設計した啓明館やアーモスト館、鉄筋コンクリート大建築の明德館など、数々の建物が広大なキャンパスに設計されています。同じ洋風校舎でも多彩なデザインがあるのが同志社大学の魅力。建物の系譜、変化し続けるキャンパスの歴史については「VISION2025」のスペシャルコンテンツもぜひご覧ください。

ハリス理化学館 1890

同志社の煉瓦造建築としては四番目で、長らく同志社における理化学教育の拠点となった建物。新島襄の科学に対する熱意に共鳴したアメリカの実業家J.N.ハリスの寄付で建設が実現した。現在は、新島襄の今に息づく精神を貴重な資料によって紹介するギャラリーとなっている。



未来へと
語り継ぐために

同志社の重要文化財建物との
調和を図るデザインを継承

良心館 2012

クラーク記念館 1893

B.W.クラーク夫妻からの寄付によって建てられ、1894年1月に開館。1963年に新しい神学館が建設されるまでは、同志社の神学教育と研鑽の場として利用されてきた。本館にキリスト教文化センターがあり、教室のほか、クラーク・チャペルも備わっている。





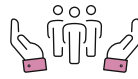
中小企業マネジメント研究センターの設立

関 アントレプレナーシップは一般的に「起業家精神」と訳されますが、本来は起業に伴う社会の変革や個人の熱意なども含めた非常に広い概念です。私が中小企業のアントレプレナーシップについて研究するようになった理由の一つとして、新型コロナウイルス感染症の影響で、飲食店の営業自粛などで中小企業の経営が困難に直面したことがあります。コロナ禍で苦境を乗り越えようとする過程は、まさにアントレプレナーシップ。研究テーマとして取り上げ、社会に発信することで、日本の経済社会の未来を描けるのではないかと思います。

藤村 私たちの故郷である山口県宇部市は、大企業の宇部興産（現UBE株式会社）を中心に、その下請、孫請、ひ孫請の中小企業で成り立っている企業城下町でした。高校時代が宇部興産の業績が悪かった時期で、宇部興産がくしゃみをする、町全体がこんなに衰退するのかと痛感しましたね。

関 私はその経験から中小企業に問題意識を持つようになりました。中小企業は日本の企業の99.7%を占め、地域経済だけでなく地域社会そのものを支えています。それなのに中小企業の研究者はごく少ない。研究者を養成するためにも同志社大で学部、研究科に関係なく研究できる環境を作ろうと思い、卒業生だった藤村さんに相談したんです。

藤村 わが社のコンセプト「ヒトツクルヒトツクル」にも合致しましたし、100年経営研究機構の道を進み始めたタイミングでもありました。ただ私は関さんのように、高校時代から今の事業を決めていたわけではありません。26歳で独立し、ベンチャー支援の世界に身を置く中で当時の風潮に違和感を覚え「自分のため」「お金のため」だけではない自分なりのテーマを模索する中で、新将命先生（元ジョンソンエンドジョンソン



STARTUPS

アントレプレナーシップがもたらす成長と可能性

日本経済が成長軌道を取り戻すために欠かせないのが、勢いのあるスタートアップ(新興企業)の登場です。政府は「スタートアップ育成5か年計画」を2022年11月に発表。過去最大規模の予算を背景に、スタートアップの創出を進めています。スタートアップや起業家の成長には何が必要なのでしょう。同志社大学中小企業マネジメント研究センター発足に関わった関 智宏教授と、高校の同級生で経営者教育の観点からベンチャー創出に取り組む株式会社VALCREATION代表取締役・藤村 雄志さんに、アカデミアと民間の立場で語っていただきました。

株式会社VALCREATION 代表取締役
G&Cコンサルティング株式会社 代表取締役
一般社団法人100年経営研究機構 専務理事兼事務局長

ふじむら ゆうじ
藤村 雄志さん

1978年、山口県宇部市生まれ。同志社大学商学部卒業後、株式会社ベンチャー・リンクを経て2004年に独立。ベンチャー支援事業、地方創生事業を、東京、京都、奈良、徳島、山口で展開。22年、持続可能な地方創生の取り組みが評価され内閣府地方創生テレワークアワード地方創生担当大臣賞を受賞。

商学部・商学科 教授
同志社大学中小企業マネジメント研究センター長

せき ともひろ
関 智宏教授

1978年、山口県宇部市生まれ。専門は中小企業論、中小企業経営論。最近では中小企業の持続可能な経営を実現可能とするアントレプレナーシップとしての企業家活動プロセスを研究。主な著書に「よくわかる中小企業」(編著、ミネルヴァ書房)、「新型コロナウイルス感染症と中小企業」(編著、同友館)など。



なぜ日本には スタートアップが少ないのか

社長と後藤俊夫先生(100年経営研究機構代表理事)という2人のメンターに出会い、学んだことで、今の事業が定まったんです。後藤先生とは、同志社大学が2010年につくった事業承継学会に入会したことで出会ったことができました。

関 同志社大学はもと西日本の中小企業研究の拠点でしたからね。中小企業マネジメント研究センターの設立には、もう一度その拠点としての機能を復活させたいという思いもありました。研究センターを作れば、そこに全国の若い研究者を束ねることもできるし、そこで研究機会を作れば中小企業研究がもっと活性化していく。藤村さんにアドバイスをもらったり背中を押してもらったりして、18年に設立しました。

藤村 私たちの故郷である宇部に研究センターのサテライトを出すことも、2人のつながりから実現しましたね。

関 日本にスタートアップが少ないのは、卒業して社会に出れば既存の会社に就職するというルートが今もほとんどだからだと思います。大きな会社、安定した会社に就職することが本人にとってもご家族にとっても、学校にとってもハッピーだという社会風潮が、今も根強いことが一番の問題です。

藤村 まだまだ日本には新卒だからこそ入れる会社もありまし、新卒で入った会社は履歴書にずっと載って、その人を評価する一つになると思うんです。ただ、今後、組織の中にいても自立が求められる社会になるからこそ、起業も含めた広い選択肢から進路を決めた方が、覚悟を持って歩んでいけ



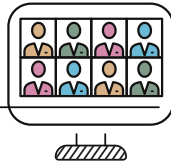
る。起業という未知の世界を、就職する前の学生時代に1回経験してみるのには大事じゃないかなと思っています。

関 大企業であっても経営が傾き、事業を売却することもある。現代はなおさら将来を予測しにくい時代になってきています。その中で、未来を切り開くのは自分自身だ、自分で事業をやっていくしかないと思う学生は増えてきたように思います。社会が抱える課題をビジネスという手法で解決したいという、社会性の高い思考を持った若い世代も一定数います。政府の支援など、制度面での起業環境はかつてないぐらい整っている、あとは、やろうと思うかどうかのポイントです。

藤村 もう一つは人的環境でしょうね。私の大学時代は第3次ベンチャーブームで、周りに学生起業家が多かったんです。他大学も含め、さまざまな想いを持ってアクティブに動いている友達が多かったおかげで自分の目線も上がり、自分で何事も決められる人生を歩みたいと思うようになりました。

関 起業も一つの選択肢だということを知っている学生はいるんですけど、その点でネックなのが今の日本の就職活動で、そういう世界もあるということを知る時間が本当にないんです。大学人として、起業志向の高い学生たちが手を挙げてそこに行けるような環境づくりをしていくことが責務だろうと考えています。藤村さんをはじめ、いろんな起業家の方たちを学生と向き合わせてるのは、そういう狙いがあるんです。

藤村 自分がどうありたいかを常に考え、できる限り目



線が高く持ち続けることは、肩の凝ることでもあって一人だと次第に目線もモチベーションも下がっちゃうんです。だから、「おまえ、目線下がってないか」と言って気づかせてくれる仲間がいることが大切です。そういう人間関係を作っていくことが、まず一つ重要なのではないかと思います。

起業意識、リアルな交流から

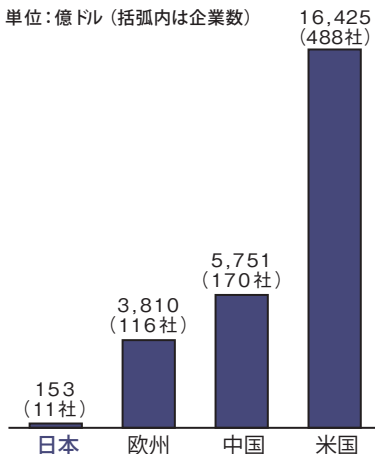
関 今の2、3回生の学生たちはコロナ禍で入学してすぐオンライン授業になったので、友達が少ないんですよ。だから対面授業が再開し、例えばゼミ内でいろいろな活動をする、すごく盛り上がるんです。「会えるからこそ今会おう」という気持ちもすごく強まっているような気がします。この勢いでいろんな起業事例に触れさせると、一歩を踏み出してくれる学生が増えてくるのではと期待しています。

藤村 宇部に22年8月、「UBE MIRAIチャレンジ」という株式会社を発起人として設立しました。地元若手経営者に出資してもらって大学生が経営をするという方式で運営をしており、今はバーをやっています。飲み屋というより、山口大学をはじめ近隣の大学生と地域の社会人、起業家が出会う場としてのバーです。関さんにも注目してもらっていて、ゼミ生も来てくれましたね。

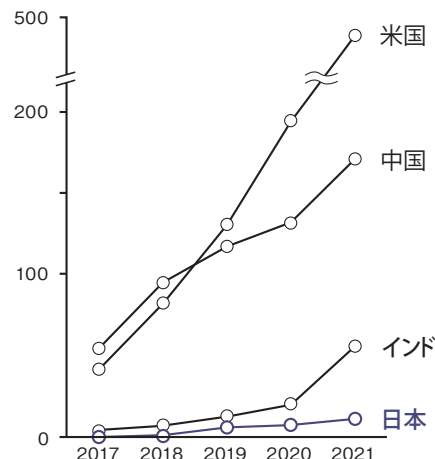
関 山口大学の学生たちとも密に、朝まで語り合ったらいいです。そういうことって大学生にとってすごく大事なことです。いろんなタイプのゼミ生がいますが、自分たちが動けば変わっていくんだという思いを、強く持つようになってきています。今まさに進行形です。

藤村 コロナ禍を経て、リアルで出会うニーズが増してい

単位：億ドル（括弧内は企業数）



ユニコーン企業価値合計の国際比較^{*2}



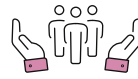
各国のユニコーン企業数の推移^{*1}

^{*1}: 2021年12月時点でユニコーンではない企業は積算されていない。

^{*2}: 1ドル=115円で換算

出所: CB Insights「The Complete List Of Unicorn Companies」、STARTUP DB

日本のユニコーン企業（企業価値10億ドル超の非上場スタートアップ企業）の創出は、数・スピードにおいて世界と大きく差が開いている。



るんでしよう。今後も民間の立場でそのような場を創り出していききたいと思います。大学の信用というのは大きいので、同志社大学にも首頭を取っていただきたいです。

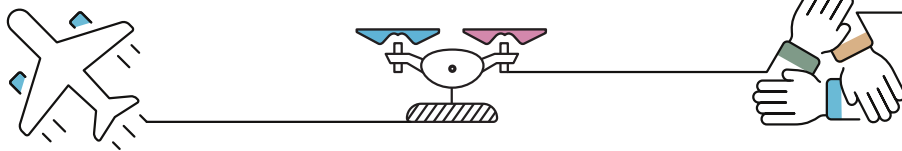
関 機会を得て起業意識を高めた学生が、次にそれを実践へ移していくための道筋をどう設計するか。学部内の企業経営分野内でも検討し始めています。

藤村 起業モデルも、あと5年、10年もすれば変わってくると思うんです。本格的に後継者不足による大廃業時代が来ると、その受け皿として「後継型起業」も増えるでしょう。

関 たしかに、親の会社を承継することも一つの大きな起業です。親のやってきた方式のままでは続けられないので、世代交代のタイミングで新しい事業に取り組むということはよくあります。

藤村 地域社会で何らかの役割を担い、培ってきたものが伝統や文化にもなっている中小企業が、業績も悪くないのに後継者不足といった後ろ向きな理由で廃業してしまうのは問題です。起業をしたい若い力を活用して、望まれる廃業が承継型の起業として次世代に継承されるような動きも今後加速してくると思います。そういう構造を同志社大学でつくれませんか。

関 大手企業でも起業マインドは要るわけで、そういう意味で、起業意識を誰もが持てるような環境づくりをしていく必要はあると思います。どんなに不透明で不安な状況にあつても、それを乗り越えていこうとする力。そ

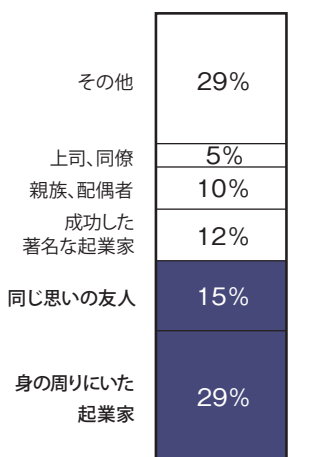


の力を発揮できる環境、ネットワーク、制度などをいろいろ整備していかないとはいけません。大学だけではできないので、行政や金融機関、卒業生も巻き込んで、いろんな人たちがエコシステムをつくっていくのがいいでしょうね。

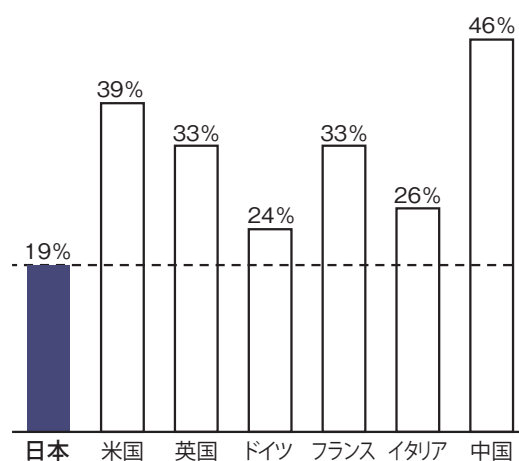
やれることは何でもやろう

関 学生の皆さんには、学生のうちにでき得ることは何事もやってほしいなと思っています。成人になり、いろんなことが自分の責任でできるわけですから、行けるんだたら行つてほしいし、会えるんだたら会つてほしい。そういう機会つて今しかないんですよ。今だからできることを、最大限やりきつてほしい。そしてこれは、失敗した時に周りがサポートしてあげるという環境が前提ではあります。親御さんも含めてしっかりと、子どもたちの背中を押していただきたいと思っています。

藤村 「仕事か家庭か」「部活か恋愛か」というA or B、二者択一の考えは昭和のパラダイムです。これからは、A and B、どちらを選択しても良い時代です。今、世界で掲げられているSDGsも、環境も経済も同時に良くしていくことを求めています。経営のあり方も、経済成長だけでなく企業倫理や社会貢献がより強く求められる「経済も道徳も」という考え方が求められることでしょう。そういう大きな潮流の中の皆さんのこれからの社会人人生です。新将命先生の言葉を借りれば、「人生は思った通りになる。でも、思った通りにしかならない」。ビジョンをしっかりと描き、その手段としてキャリアを考えてください。その中にベンチャー起業、スタートアップ起業という選択肢が入ればいいのではないかと思います。



起業に当たり最も影響を受けた人



起業した人が身近にいる人の割合

出所：平成31年度グローバル・スタートアップ・エコシステム連携強化事業「起業家精神に関する調査報告書」、一般財団法人ベンチャー・エンタープライズセンター「ベンチャー白書2020」

起業家の多くが起業するに当たり、身近な起業家・起業マインドを持った人に影響を受けている。一方、起業した人が周りにいる割合は他国より劣る。